

豊中市社会福祉協議会（大阪府）

ひとりぼっちをつくらない ～コミュニティソーシャルワーカーの活動



豊中あぐり

1. 基本情報

自治体・団体名	社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
住所等	〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15 豊中市すこやかプラザ 2階 TEL 06-6841-9393 https://www.toyonaka-shakyo.or.jp/
圏域の人口、高齢化率	人口：398,864人（H30.12.1） 高齢化率：25.4%（H29）
生活困窮者自立支援法に基づく事業の実施状況	自立相談支援事業（受託）
主な事業・活動	<ul style="list-style-type: none">・各種相談事業・校区福祉委員会・小地域ネットワーク活動・コミュニティソーシャルワーカーの配置・生活支援コーディネーター事業・豊中あぐりプロジェクト・地域包括支援センター・地域福祉権利擁護センター・日常生活自立支援事業・暮らし支えあい事業・生活福祉資金貸付事業・介護サービス・ファミリー・サポート・センター・子育てサークル・サロン・子どもの居場所づくり・当事者組織の立ち上げ・支援

2. 取り組みの経緯・背景

- ・阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、住民同士が支え合う地域づくりをすすめてきた。
- ・小学校区ごとに設置した「校区福祉委員会」（地域住民による福祉活動の組織）を通して地域のさまざまな課題を把握し、地域住民とともに解決を図ってきた。

- ・平成16年よりコミュニティソーシャルワーカーの配置を開始。現在は豊中市地域福祉計画に基づき、介護保険制度の生活圏域（7圏域）ごとに2名ずつと生活支援コーディネーターとの兼務の職員を含む18名が配置されている。

3. 取り組み概要・実施体制

（1）校区福祉委員会活動

- ・個別援助活動・・・見守り、声かけ活動、個別支援
- ・グループ援助活動・・・ふれあいサロン、世代間交流、ミニデイサービス、会食会、子育てサロン
- ・その他・・・災害時の安否確認事業、子どもの安心安全見守り活動、福祉なんでも相談窓口

（2）福祉なんでも相談窓口

- ・小学校区ごとに設置され、概ね週1回、2時間窓口を開いており、身近な福祉相談の実施と専門機関への取次ぎを担うとともに、地域住民が集う交流やふれあいの拠点であり、福祉サービスやボランティアに関する事など様々な情報の受発信の核にもなっている。

（3）見守りローラー作戦

- ・校区福祉委員会や民生委員、住民とともに年間3,600軒を訪問するローラー作戦を実施。

（4）ライフセーフティネット

- ・個別支援を通して把握された課題を地域福祉ネットワーク会議やライフセーフティ総合調整会議の場で共有し、地域に必要な支援の仕組を開発している。（協働プロジェクト）

（プロジェクトの例）

福祉ごみ処理プロジェクト、徘徊SOSメールプロジェクト、各種交流会、当事者グループの開催、8ヶ国語の地域福祉ガイドの作成

（5）びーのびーのプロジェクト

- ・発達障害やひきこもりなどで就職に距離がある人を対象に、様々なプログラムを実施。あらかじめプログラム予定表を作成し、参加したいプログラムにエントリーしてもらうようになっている。活動費として1コマにつき500円が参加者に支払われる。

（プログラムの例）

園芸、収穫物の販売、各種ストラップやキャンドルづくり（作品を福祉の店「なかま」や市社協のイベントなどで販売）、自分史づくり、福祉マンガの発行（コミュニティソーシャルワーカーの活動紹介漫画を作成）、府営住宅での出前市場（お買い上げ商品を自宅まで運ぶ）、情報誌、夕刊配達、マルシェ（食品販売）など

（6）豊中あぐり

- ・シニア世代の男性を対象に、農業と地域福祉を学ぶ「豊中あぐり塾」を開催。都市型農園を開設し、定年後の男性の社会参加、健康づくり、仲間づくりを進めている。

4. 成果と今後の課題

- ・福祉なんでも相談や見守りローラー作戦など、住民とともに地域にアウトリーチすることで、支援を求める「声なき声」の掘り起こしにつながっている。
- ・日常生活圏域から市全域まで各段階にネットワーク会議が設置されており、個別のニーズを共有し、課題解決のための仕組づくりが行われている。
- ・「豊中あぐり」では、シニア世代の男性の社会参加や仲間づくりが進み、活動を通してつくられたネットワークが災害時にも力を発揮した。